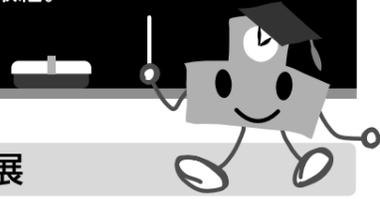


小学校の事例 清田区 北野平小学校

取材をとおして児童と地域の会社が交流し、エコの意識も互いに向上。

社会貢献型のプロジェクト学習でエコマップを作成。地域企業への取材からお互いに向上心が生まれる取組。



はじめに 社会貢献型プロジェクト学習から発展

平成21年度から行っている本校独自の取組「社会貢献型プロジェクト学習」の過程で、子供たちはいろいろな会社が社会や環境にやさしい活動を行っていることを知った。

そこから「エコに積極的なのはどんな会社?」「どのように取組んでいるの?」などの疑問に発展。会社やお店の活動を調べ、地域の人にもその取組を知ってもらえるようエコマップを作成している。

内容 会社への取材の申込みは子どもから

地域を探索する授業を利用し、会社やお店を訪問したり、聞き取り調査を行い、その結果をエコマップにまとめた。

各会社等への取材の申込みは、子ども自ら行った。まず、電話をかけるときのモデルパターンを職員室でビデオ撮影し、クラスで上映。みんなで見たあと、電話交渉を実践した。

近隣のタクシー会社、自動車販売会社、ファストフード店などを複数日に分けて取材。その中でもあるコンビニ会社ではエコ活動についての経営方針があり、本部から会社全体の取組を教えてもらうことができたほか、タクシー会社なら「アイドリングストップをしています」、飲食店なら「地産地消を心がけています」など、各企業やお店に取材した取組内容を地図に書き入れ、イラスト入りのエコマップを作成することができた。



タクシー会社の訪問



エコマップの届け先の方々

効果 児童と会社との交流も促進

学校や家の近くにある地域の会社のエコ活動取材することで、子供たちは、エコ活動が特別なことではなく、身近であたりまえのこととして捉えられるようになってきている。

会社の方から「会社もがんばっているから君たちもがんばってね」と言われるなど、企業との交流も生まれている。大人との交流は職業体験の土台になり、学校の授業では気付かないことも学べる。子供たちの環境に対する興味が高まり、そして取材を受けた会社やお店、地域の大人たちもますますエコへの意識が向上するなど相乗効果が表れている。



ハンバーガーショップの訪問

課題 地域の協力と時間の調整が不可欠

学校外での取材は安全面の確保が最優先だ。活動によっては、保護者や地域の協力は欠かせない。また、学校から会社やお店への移動にかかる時間なども、考慮する必要がある。

この取材活動は、2時限(45分×2)の授業で取組んでいるが、「企業のアポイントメントをとりきれない」「企業を回り切れない」などの課題がある。総合的な学習の時間での活動だが、時間の調整は難しい。

今後は高学年の会社見学の機会をもっと増やし、子供たちの環境に関する一層の学習と理解を深めていきたいと考えている。



取材先に向かうところ

広げよう
つなげよう
環境学習の輪



実施校から
メッセージ

担当の先生が地域の会社を下調べし、児童の活動に適しているかをポイントに訪問できる会社を選定。会社には活動に関わる事前交渉をし、了解を得ます。その後、子供たちは取材申込みの練習をし、実際に取材先の会社に電話を掛けたり、ファックスを送ります。子供たちの交渉は予想以上に上手で驚きました。「社会貢献って何?」「エコって何?」というテーマを、子どもが自発的に調べあげ、その活動をまとめられるようになるには長い時間がかかります。活動自体が目的を達成するためには、時間を多くとっておく必要があると考えています。